



日本骨髄バンクの現状（平成 25 年 6 月末現在）

	5 月	6 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,622	2,442	433,336	583,419
患者登録者数	262	272	2,859	39,075
移植例数	111	117	—	15,715

■6月の年齢別ドナー登録者数（現在数）

10代 3,241人
20代 71,594人
30代 151,876人
40代 164,909人
50代 41,716人

■6月の20歳未満の登録者 384人

注)平成24年7月より集計方法が変わりました。

■6月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム/756人、献血併行型集団登録会/1,604人、集団登録会/24人、その他/58人

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して2回提供された方（累計数）910人 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）566件

■国際協力の現状（2013年4月～2013年6月）

<海外ドナー⇒国内患者> 移植数 3件：台湾 2件、CMDP 1件 累計移植数：179件

<国内ドナー⇒海外患者> 提供数 4件：KMDP 3件、スイス 1件 累計提供数：227件

1 当財団の「日本骨髄バンク」への名称変更について

日本の骨髄バンク事業は、国（＝厚生労働省）の主導のもと、骨髄移植推進財団が主体となって、日本赤十字社および地方公共団体の協力により行われている公的な事業です。

1991年に骨髄バンク事業の主体として骨髄移植推進財団が設立され、以来20余年間にわたり、多くの方々のご支援とご協力をいただきながら、患者救命のために事業を行ってきました。

その一方で「骨髄移植推進財団と骨髄バンクはどう違うのか」という声が数多く寄せられていたことから、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の制定を契機として、本年3月21日の第2回通常理事会および6月24日の第2回通常評議員会において、現在の骨髄移植推進財団という名称を、事業の実態に合わせた名称に変更することが決議されました。

なお、現在上記の法施行に向けて、具体的な運用体制のあり方についての準備が進められており、日本の造血幹細胞移植事業における国、骨髄バンク、さい帯血バンク、日本赤十字社等の関係機関の位置付けと役割が一層明確化されることが期待されます。新名称と変更時期は以下のとおりです。

○新名称：公益財団法人 日本骨髄バンク ○変更日：平成25年10月1日（火）

2 平成24年度事業報告と決算報告が可決承認

6月24日（月）に開催された第2回通常評議員会において、平成24年度事業報告（案）と決算報告（案）が審議、承認されました。事業報告の概要は以下のとおりです。

平成24年度に当財団が仲介した非血縁者間骨髄移植・末梢血幹細胞移植は1,338例で、過去最高を更新しました。新規のドナー登録者数は38,050人で、平成25年3月末のドナー登録者は429,677人となりました。

平成22年10月に導入した非血縁者間末梢血幹細胞移植（以下、PBSC Tという）については、平成24年度の国の予備費により、全国11カ所の施設にCD34測定器が購入されることになり、PBSC T認定施設の増加が加速しました。PBSC T認定施設の増加により、採取施設に通院可能な対象ドナーの拡大が期待されます。

平成24年度の決算については、移植件数が増加したものの、寄付金の大幅な減少により、経常ベースで1,500万円の赤字でした。



なお、平成 24 年度事業報告、および決算報告については、財団ホームページの骨髄移植推進財団について>骨髄移植推進財団の概要>法人情報>「平成 24 年度事業報告」、「平成 24 年度決算報告」をご覧ください。

3 AC新キャンペーン「キミじゃなきや」編、7月からスタート

今年度のACジャパンによる骨髄バンク支援キャンペーンが7月からはじまりました。

「キミじゃなきや、ダメなんだ。そう言われることが、人生で何回あるだろう」。誰もが心の奥に持っている使命感に語りかける作品となりました。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌は7月より、交通広告（首都圏など）は8月から、渋谷センター街のビルボードは8月中旬から掲出が始まる予定です。また、同キャンペーンと連動したポスターは、8月中旬より配布を予定しています。

なお、同キャンペーンはACジャパンのホームページでご覧いただけます (<http://www.ad-c.or.jp/campaign/support/03/>)。

4 「骨髄バンク語りべ等派遣事業」へのご協力をお願い

骨髄バンクは年齢超過によるドナー登録取り消し者が年々増加し、年齢別登録者からみると5年後には年間1万人の取り消し者が見込まれています。そこで、若年層への啓発活動によって、ドナー登録を推進することが重要な課題となっています。骨髄バンク語りべ等派遣事業は、こうした問題を解決するための活動です。講演会を開催していただける学校、企業の皆さまに是非ご紹介していただきたくお願い申し上げますとともに、元患者さんやドナー経験者など、講演者につきましても自薦他薦問わず、申し込みいただければ幸いです。

5 読売巨人軍が福島で骨髄バンク支援

7月10日（水）、福島県営あづま球場で巨人対ヤクルトの試合が開催され、様々なファンサービスが行われました。ステージ G-KING では、骨髄バンク普及大使である佐々原聖子さんと若狭みなとさんが、本田美奈子さんが歌った「Amazing Grace」と「闘魂こめて」を熱唱し、会場を盛り上げました。また、読売巨人軍の杉内俊哉投手が、福島県立医科大付属病院の患者さんやご家族など30人を試合に招待し、患者さんたちは試合観戦で楽しいひと時を過ごしました。

6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に当財団事務局総務部までお申込みください。

	公開・非公開	開催予定
業務執行会議	公開・一部非公開	7月25日（木）17:30～ 廣瀬第2ビル 地下会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

7 身体に障害がある方のドナー適格性の基本的考え方について

当財団では、身体に障害があるドナーの場合は、採取時に体位が保持できることなどの基準を定めていました。その後、障害がある方が骨髄提供後に健康上の問題が生じた例が報告されたため、体位保持に加え、「リハビリ中は不適格」とする基準を追加しました。このたび「骨髄提供例に関する検討会」の意見を踏まえてドナー安全委員会において検討した結果、ドナーの方の安全確保の観点から以下の基準を策定しました。基準を確認の上、ご対応くださいますようお願いいたします。

○ドナー適格性判定基準

「身体に障害がある方のドナー適格性の基本的考え方」

身体に何らかの障害がある場合は、提供後にももとの障害が悪化することや二次障害等が進展する可能性も視野に入れ慎重な対応を行う。その場合、必要に応じて専門医からの診断書を提出していただいた上で、採取担当医師および地区代表協力医師により慎重に協議し、適格性を判定する。なお、ドナーの方と十分なコミュニケーションが取れない場合においては、更に慎重な対応が必要である。

8 確認検査（血液一般検査）結果判定の財団基準について

確認検査（血液一般検査）結果判定の財団基準値について、以下の検査項目および基準値を追加しましたのでご報告します。

7月16日以降に実施する確認検査から、下記検査項目および基準値を追加して確認検査結果の判定を行います。

○検査項目及び基準値

ヘマトクリット値 (Ht) (%) M ≥ 39.8 ≤ 51.8

F ≥ 33.4 ≤ 44.9

平均赤血球容積 (MCV) (μm^3) M ≥ 82.7 ≤ 101.6

F ≥ 79 ≤ 100

○判定

上記の数値外の場合、要検討（総合判定）とする。

9 骨髄採取時の尿道カテーテル・胃管の取り扱いについて

非血縁者間骨髄採取時の尿道カテーテルおよび胃管の取り扱いについて採取施設より質問があり、ドナー安全委員会に確認した結果、尿道カテーテルおよび胃管の取り扱いについては、安全な全



身管理のために必要な場合、その使用については採取施設麻酔科医の判断とすることとされました。

また、現在改訂作業中のドナーの説明書（10月1日使用開始）に、以下の説明を追加することとされました。コーディネーターの方々は10月1日以降の面談において、説明書に基づき以下の内容についてドナーへ説明するよう対応をお願いします。

○追加事項

麻酔中に胃の内容物が逆流して肺に入ること（誤嚥）を防ぐために、鼻から胃まで細い管（胃管）を入れることがあります。

10 連絡事項

◆帳票（返信用紙Ⅳ・問診票）変更について

「返信用紙Ⅳ【問診票】」を修正し、7月16日ドナー送付分から変更します。

○変更点

旧) 9. ご自身が受けた最新の健康診断や献血で、何か異常の指摘を受けましたか。

新) 9. 過去に、ご自身が受けた健康診断や献血で、何か異常の指摘を受けましたか。

○変更の理由

「最新の・・・」との記載のため、数年前の健康上の指摘を回答せず、術前健診にて中止となった事例があったため。

◆コーディネート上の書類・備品の管理等について

ここ数カ月の間に、複数の地区から報告書や携帯電話の紛失が報告されました。幸いなことに個人情報の流失などの大事には至りませんでした。自署を含む書類等の紛失は、コーディネートの遅延に関わる場合もあります。改めて管理の徹底をお願いします。また紛失の可能性が発覚した場合には、当財団として迅速かつ適切に対応する必要があるため、すみやかに地区事務局経由でドナーコーディネート部にご連絡ください。

◆「終了理由別終了件数」について

2012年度にコーディネート終了となったものについて別紙を同封します。昨年のシステム改修により解析に時間を要したため、例年より報告が遅れました。

これまでは「骨髄提供に向けたコーディネート」の終了理由別終了件数のみ公表していましたが。新たにPBSC Tが導入されたことに伴い、「骨髄または末梢血幹細胞提供に向けたコーディネート」においては、骨髄とPBSC Tがそれぞれ別の理由で終了することがあります。

そのため、「骨髄または末梢血幹細胞提供に向けたコーディネート」については、「骨髄提供に向けたコーディネート」とは別の表で示すこととしました。ただし、現在のシステムでは、骨髄とPBSC Tのそれぞれの終了理由は保持していますが、終了行程は一つしか情報を持たないため行程別には表示していません。